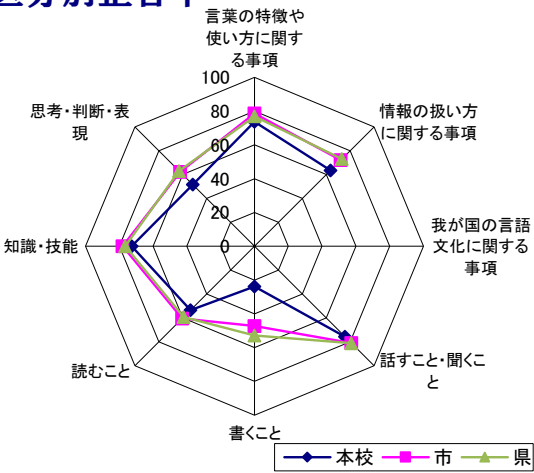


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.7	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	63.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	75.7	81.0	81.1
	書くこと	23.8	47.2	52.8
観点	読むこと	53.4	60.5	59.3
	知識・技能	72.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	51.6	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は53.3%で、県の平均を10ポイント下回った。 ●指示する語句の役割を理解し、適切に使うことができるかどうかをみる問題の正答率は79.4%で、県の平均を10ポイント下回った。	・漢字を正しく読む力が不十分であると考えられることから、新出漢字の学習をする際には、書くことの指導だけでなく、音訓読みや熟語の読み方を学習することを加え、正しく身に付けられるようにする。 ・授業の中で、主語や述語を意識して読む活動をする。また、説明文などの教材を取り扱う場合は、指示後が何を示すのかを確認しながら授業を行う。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題の正答率は63.6%で、県の平均を9.5ポイント下回った。	・新しい単元の導入時に重要な語句の意味調べをさせたり、普段の生活で気になった言葉を調べる機会を設け、国語辞典に触れる頻度を高くすることで使い方を身に付けさせたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は81.3%で、県の平均と同程度だった。 ●自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる問題の正答率は9.2%で、県の平均を12.8ポイント下回った。	・理由を絡めて自分の考えを示すことができる児童は少ない。意見を考える活動をするときには、意見についての理由を考える時間を設けることで、自分の考えに理由を付ける習慣付けていきたい。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●自分の考えを明確にして文を書くことができるかどうかをみる問題の正答率は25.2%で、県の平均を31ポイント下回った。	・自分の考えを順序立てて書くことに慣れてない児童が多い。伝えたいことに、必要な言葉を付け足して文章を作る活動をすることで、伝わりやすい文章を書く力を付けていきたい。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、78.5%で、県の平均と同程度だった。 ●叙述を基に指示語の内容を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は36.5%で、県の平均を12.4ポイント下回った。	・授業で取り扱う文章についての感想や意見文を書いたり、共有したりすることを通して、自分の考えを深め、文章をより理解できるようにする。